



若い力を結集し特殊案件処理



協屋 忠生
税理士法人AKJ
パートナーズ
福岡オフィス責任者

「東京は税理士法人が飽和状態、全国的にも景気が低迷している。そんな中、福岡は市場に活気があり、税理士の需要も高

いと感じている」と話すのは税理士法人AKJパートナーズ福岡オフィス（福岡市博多区住吉1丁目）の脇屋忠生責任者。

同法人はビッグ4と呼ばれる大手監査法人や税理士法人で経験を積んだ30代の若手税理士・会計士が中心。「12年1月の福岡オフィスの立ち上げ時も偶然、大手に勤める福岡出身

の若手税理士・会計士のUターン転職需要を取り込み、優秀な人材を揃えることができた。現在、福岡オフィスは7人体制で大手事務所で培った経験を生かして特殊案件にも取り組んでいる」と事業領域を広げている。6月11日には同法人名義で「特定医療法人への移行実務」を出版。内容は社団医療法人が相続税支払いのために財産を手放し破産してしまう矛盾を無くすため、特定医療法人に移行する方法を記している。「特殊な案件は福岡だけでなく、東京のメンバーと一緒にそれぞれの得意分野の知恵を出し合い解決への糸口を見つけている」と柔軟な対応で顧客の期待に込めている。

「福岡は古くから活躍している先生方が多い。我々は地元の先生方とバッティングしないよう、特殊な案件が発生したときにお手伝いするような立場を目指していきたい」と未来への展望を語った。（京都市出身1971年5月22日生まれの42歳。滋賀大学大学院経済学研究科卒。趣味は読書、お酒、居合）